核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会

No. 49 会報

富山市桜橋通り 6-13
TEL　076-442-8000
世話人代表　金井 英子

2019 年 映画上映会と被爆者の講演のつどい

参加無料
どなたでも参加できます
＊会場準備のため、事前のお申込みをお願いします

とき　**8 月 11 日（日・祝）**
13:00 ～ 16:00

ところ　**タワー 111　3 階スカイホール**
富山市牛島新町 5-5　TEL:076-432-1414
（富山駅北にあるインテック社のビルです）

13:00 ～ 15:00 映画上映

夕凪の街　桜の国（2007 年公開）

「この世界の片隅に」などの作者で知られる広島市出身の漫画家・こうの史代さん原作漫画を映画化。
原爆投下から 13 年後を生きる女性と現代を生きる女性の二人を通して、日常生活の中にふとよぎる原爆の光景や、生き残ったことへの負い目、後遺症への恐怖と周囲からの偏見…。原爆の悲惨さ、理不尽さとともに、生きることの大切さを訴えかける作品です。
主人公を演じた麻生久美子さんがブルーリボン賞主演女優賞に輝くなど数々の賞を受賞しています。

15:00 ～ 16:00　講演

私の被爆体験と核兵器のない世界を求めて

日本原水爆被害者団体協議会
（日本被団協）　事務局長

お話しする人　**木戸 季市** さん
きど　すえいち

木戸さんは、1940 年長崎県に生まれ、5 歳の時に爆心地から 2 kmの長崎市内で被爆しました。
1991 年に岐阜県原爆被害者の会結成に参加し被爆者運動を始め、2017 年からは日本被団協の事務局長を務めています。
今年 5 月にはニューヨークの国連本部を訪ねて「ヒバクシャ国際署名」941 万筆を国連議長に提出、核兵器禁止条約の早期発効への協力を求めました。

■主催　核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会
■後援　富山県被爆者協議会、富山県被爆 2 世・3 世の会、富山県保険医協会

●木戸季市さんの被爆体験……2
●寄稿「心の無いのがあの人たち」（北川正信先生）……3
●案内「第 30 回反核医師のつどい in 京都」……4

木戸季市さんの講演から（抜粋）

Peace Now!
Nagasaki 2015
(8/8 ～ 8/11)
での講演の抜粋です

私は三度被爆者になった

私は三度被爆者になったと思っています。

1 回目は 1945 年 8 月 9 日です。被爆し、やけどもしましたし、虚弱になり、被爆者になりましたが、何が起こったかわかりませんでした。幼かった私は、原爆をドラム缶爆弾と言っていました。ピカッと熱線を浴び、ドーンと爆風で飛ばされ気を失い、母の声で目覚め、初めて見たものが散乱したドラム缶でした。それで、原爆をドラム缶が爆発したものと思っていたのです。「この子はそんな風に」と思ったのか、父や母は、涙は流しても、違うとは決して言いませんでした。

原爆について、アメリカは一切報道してはいけないと禁止しました。ジュノー博士がマッカーサーに医療品を要請しましたが拒否されました。それは原爆の非人間性を隠すためでした。公式には被害者の写真を撮ることも許されず、被爆者は大変な被害を負っていましたが、見捨てられていたのです。

被爆者と知ったとき

2 回目は禁止が解かれ『アサヒグラフ』が原爆報道の特集を出した 1952 年です。私はそのとき、初めて自分が被爆者、と知りました。それと同時に不安も抱き始めました。やがて白血病で死ぬ、奇形児が生まれるから子どもをつくってはいけない、などと言われていたからです。長崎で被爆し他県で教師をしていた女性から「広島・長崎以外の地で被爆者を名乗ってはいけない」と言われました。説得力がありました。

被爆者運動に加わったとき

3 回目は 1991 年、岐阜県に被爆者の会を作ったときから今日までです。被爆者運動に参加して、被爆者として生きることを教えられています。被爆者として生きる、それが被爆者になるということ、と思っています。私は投下された当時 5 歳だったのですべてを記憶しているわけではなくても、自分の言葉で話ができる最後の世代として、いつか何かやらなければならない時が来るとは思っていました。その時が来たのです。

一緒に活動している被爆者は絶対に報復を考えず、再び被爆者を作らないことを目指しています。これはなぜなのでしょう。あのときの情景は人類が滅びたときの姿でした。誰であろうとあの状態は作ってはいけません。それを目の前にしてきた人として報復は絶対にしないというのです。私は、これは最高の人間の思想だと思っています。

ヒロシマ・ナガサキの事実が核を使わせなかった

私はアメリカに対して、原爆を投下したことは許せません。犯罪です。同時に、これは人類の過ちだと思っています。そして、広島と長崎でも違いがあると思っています。人類史上最初の過ちが広島、その上で、さらに罪を重ねたのが長崎への原爆投下です。だから私たちは、何よりもまず謝罪をしてほしい、そして核兵器をなくしてほしいと言っています。核兵器をなくして、人類を守りましょうと言っているのです。

日本被団協が結成されたとき、「私たち自身を救うとともに、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い合いました。核兵器は戦争の抑止に繋がりません。核保有国が核を所持して戦争はなくなりましたか？なくなっていません。核兵器は戦争の抑止力にならなかったのです。それでも、長崎での投下以降、核戦争は起きていません。それは、ヒロシマ・ナガサキの事実が核を使わせなかったのです。

戦前においては戦争を起こすかどうかを決定するのは天皇でした。国民である臣民はそれに従うだけでした。今、日本の進む道を決めるのは国民です。安倍さんだけの責任とはなりません。その中で私たちはどのような行動を選択していくべきなのでしょうか。

寄稿　「心の無いのがあの人たち」

富山医科薬科大学名誉教授
あゆみの郷 施設長
核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会 会員

北川 正信 先生

もう 20 年以上も前になるだろうか、私はかつての高校の同級生だった S さんと日立総合病院を訪れた。彼女の夫が日立製作所の技術職員であったのだが、晩年に同社の経営に係るこの病院に入院した折、担当の外科医に「もう 80 を過ぎているのだから云々」と心無い対応をされたのだという。同院で亡くなった後も「その時の医師の態度が許せず、いつまでも気が晴れない。ついては誠意ある謝意を求めたい」というので同行したのである。というのも、同院は私が東大病理時代週 1 回診断業務で通っていた東大系の病院であったからである。

予告してあったので、当日は医局長、担当医、事務局員等が応対してくれたが、病院長は現れなかった。S さんの意向が伝えられても、何らの謝意も示さず、なにがしかの“お見舞金”の提示がなされるのみであった。S さんは即座に断った。「どうせお金をせびりに来たのだろう」との態度が透けて見え、私共は不承不承退散したのであった。

韓国が慰安婦や徴用工の問題で、わが国に“心からのお詫び”を求めているのに、安倍政権は「(億単位のお金で）解決済み」としてまともに対応しようとしない。北朝鮮の拉致問題にしても、背景をなしていた戦争状態の終結を見ないまま、現在の日本人感覚のみで返せ、返せと言っても、彼らを見下げた態度をとる政権下では解決はあり得ないだろう。頭を下げるのは嫌だ、沽券にかかわる、と思っているらしい安倍さんは、誰やらさんには妙にペコペコ腰が低く、イランへ恥をかきにさえ出向いている。

「ナベカマ、シンチュウ、ペトカラ (弁当空箱)、シェッケンパコ（かつて石鹸箱は金属製)」と叫びながら田舎の村々を回っていた朝鮮人の鋳掛屋さん、見くびった声でもしようものなら「チョセン、チョセンとパカにするな！」と呼ばわっていた戦時中の状況など、安倍さん一族は見たことも、聞いたこともあるまい。植民地支配された国の人々の屈辱を思いやる気のない者でなければ、「すべて (お金で) 解決済み」などという口は利けまい。似たような「全面解決」という表現は、イタイイタイ病に関しても聞かれた。正に拝金主義者たちの世渡り術に過ぎまい。

明らかに失敗であったあの大戦、あのみじめな体験から導かれた不戦を誓う憲法 9 条は絶対変えてはならない。安倍内閣の支持率が下がらないのは、格差の下で苦しむ人たちが、幻を藁とも頼むからではないのだろうか。

緊迫する「イラン核合意」問題

そもそも「イラン核合意」とは？

6 か国（米英仏独中露)、EU がイランのウラン濃縮など核開発制限の見返りに経済制裁を解除すること

（これまでの経緯）

- 70 年、パーレビ親米政権は NPT 発効時から加盟
- 79 年、イラン革命でイスラム共和制に
- 02 年、ウラン濃縮施設を国際的に非難され停止
- 05 年、強硬派アフマディネジャド政権が再稼働
- 13 年、穏健派ロウハニ政権は国際協調路線に
- 15 年、穏健派米オバマ政権と「イラン核合意」
- 16 年、強硬派米トランプ大統領が就任
- 18 年、トランプ大統領が合意離脱を宣言
- 19 年 5 月、米空母と B52 爆撃機をイラン周辺に
- 19 年 6 月、タンカー 2 隻が爆発火災
- 19 年 6 月、ウィーンで米を除く関係国対策会議

トランプ政権の言い分

- イラン核合意は弾道ミサイルにふれていない
- 核開発制限に期限がある

イランの言い分

- 一方的な経済制裁は不当
- 事態が打開されなければ核合意の一部を停止する

中東情勢メモ（各種報道から）

- トランプ大統領、エルサレムをイスラエルの首都に
- サウジアラビアがトランプ当選後米国債を大量購入
- 「イラン革命防衛隊」がホルムズ海峡封鎖を警告
- シリア、レバノン、イエメンに親イラン武装勢力
- 核合意の崩壊はサウジ等で中東核開発ドミノを誘発
- トランプ大統領は 9 月中間選挙と自身の再選を意識
- 米イランの武力衝突は中東全土へ戦火拡大
- 原油供給を依存する日本への影響ははかり知れず
- 問題は偶発的突発的な衝突、望まれる冷静な対応

第30回 反核医師のつどい in 京都

京都からアジアへ、そして世界へ
核兵器も原発も ICAN（イカン）

2019年9.14・15

会場 **メルパルク京都**

1日目 (9/14土)

- 14:00 ～　全体会
- 14:05 ～　記念講演「核兵器禁止条約とトランプの核政策」
  黒澤満・大阪女学院大学教授
- 15:15 ～　活動紹介
  平信行（京都「被爆２世・３世の会」世話人代表）
  平野治和（光陽生協クリニック）
- 15:50 ～　特別シンポジウム
  「金融機関の核兵器製造企業への融資を止めさせよう」
  講演① "Don't Bank on the Bomb" について
  スージー・スナイダー
  （PAX 核軍縮プログラムマネジャー）
  講演②クラスター爆弾廃絶における
  金融機関への働きかけの意義
  目加田説子・中央大学総合政策学部教授
- 18:30 ～　レセプション

スージー・スナイダー氏

婦人国際平和自由連盟元事務局長。2017 年にノーベル平和賞を受賞した ICAN の中心メンバー。2016 年、"Nuclear Free Future Award" を受賞。

目加田 説子 氏

NPO やテレビ局に勤務後、経済産業研究所研究員や東京大学客員助教授等を経て、2004 年 4 月から中央大学総合政策学部教授。TBS 系サンデーモーニングに出演中。

2日目 (9/15日)

- 9:30 ～　特別講演「原発の法的問題と日本の司法制度の課題」（仮）
  樋口英明・元福井地裁裁判長
- 10:40 ～　講演「北東アジア非核化のために私たちにできること」
  中村桂子・長崎大学 "RECNA" 准教授
- 12:10 ～　まとめの全体会
- 12:30　終了　（13:00 ～　オプション企画）

【参加費】

医師・歯科医師	５，０００円
医療関係者	２，０００円
医・歯学生	１，０００円

参加申込は当会事務局まで
（TEL:076-442-8000）

会費納入のお願い

私たちの会の活動は、会費によって支えられています。活動の基盤となる財政を確保するため、今年度会費の納入をお願いします。

また、まだ入会されておられず、会の趣旨に賛同し入会を了承される先生は、ＦＡＸまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用の郵便振替用紙をお送りします。

◇年会費　　５，０００円（毎年７月が期首）
◇振込方法　郵便振替

会員の先生に 2019 年度分（2019.7 ～ 2020.6）の会費請求書（郵便振替用紙）を同封しています

編集後記

- 「偶発戦争」という言葉がある。レーダーの故障とか、命令や情報伝達の誤りなど偶然のことが契機となって起こる戦争のことだ。それを防ぐため冷戦時代の米ソ間でホットラインが設置された。
- その前提として国の指導者がクレバーで、信頼安全保障醸成措置が有効に働くことが必要だ。しかし今やツイッターで「ロケットマン」「狂った老いぼれ」と罵り合う時代である。
- ホルムズ海峡で対峙する「イラン革命防衛隊」と米軍の緊張感はいかほどのものか。一発の銃声が報復を呼びミサイルへとエスカレートする。
- 石油より平和国家日本を。安倍政権の集団的自衛権発動を許してはならない。（S・M）